

## 平成19年度 事業計画

上田市地域振興事業団の設立趣旨及び、寄附行為の目的に沿い、コミュニティの育成を図るとともに、地域住民の文化の向上と福祉の増進に関する事業を行う。

又、公共施設の管理運営の受託を通して、地域交流活動や文化振興等地域社会の発展と住みよい生活環境の創造に寄与するため、各施設の設置目的に沿いその特色を生かした事業を推進する。

### 理事会、評議員会の開催

- 1 理事会（任期 平成19年4月1日～平成21年3月31日）
  - ・平成19年5月 平成18年度決算承認等について
  - ・平成20年3月 平成20年度事業計画、予算（案）承認等について
- 2 評議員会
  - ・平成20年3月 平成20年度事業計画、予算（案）等の審議

### 公共施設の指定管理

公共施設の適切な管理と利用者の立場に立った運営を推進する。

- 1 上田地域広域連合から上田創造館の指定管理
- 2 上田市から技術研修センターの指定管理
- 3 上田市から農林漁業体験実習館の指定管理

### 公共施設の受託管理

公共施設の適切な管理と利用者の立場に立った運営を推進する。

- 1 上田市から農業バイオセンターの管理及び研究開発業務受託
- 2 上田市からマルチメディア情報センターの地域情報化業務受託

### 喫茶及び販売事業（自主事業）

施設利用者の利便性を図るとともに、ふれあいと憩いの場を提供する。

- 1 喫茶事業
  - ・上田創造館喫茶（コパン）
  - ・マルチメディア情報センター喫茶（ほーむページ）
- 2 販売事業
  - ・農林漁業体験実習館入浴用品の販売

### 指定管理事業

#### 1 コミュニティ育成に関する事業

上小地域を中心としたコミュニティ活動の推進を図る。

上田創造館を利用して文化活動をしている団体に呼びかけ発表展示を18年度開催し、好評であったので、企画運営委員会を設け実施していく。

- (1) 親子ふれあい物づくり体験事業として、折紙教室、ふしぎ・なるほど・おもしろサイエンス、光と影の遊び影絵、きり絵教室、伝承遊びの開催
- (2) 版画の手法を取り入れた蔵書票作り教室の開催（ステンシル、木版、エッジング等）
- (3) 蚕都上田にちなみ蚕の飼育、地域団体の協力を得て昔話語りの会、七夕飾り、クリスマス飾り付けの実施
- (4) 絵手紙展、きり絵展、蔵書票展の開催
- (5) 星空コンサート、文化講演会、天文講演会の開催
- (6) プラネタリウムでは、星空の投影と音楽で住民の皆さんにリラックスタイムを送る計画
- (7) エントランスでは、地域で活躍しているアマチュアの音楽の発表の場としてミニコンサートを開催

#### 2 文化振興に関する事業

地域の伝統・伝承的民俗行事等の紹介や教育、文化活動を支援し、地域の芸術文化の発展に努める。

- (1) 地域に伝わり、伝承的財産として保存されている行事等の紹介や展示  
「企画展 明治・大正・昭和初期のしごと着展」「道祖神まつり展」「凧展」「しめ縄つくり」の実施
- (2) 文化団体等との共催による美術展を開催し、展示施設等の有効利用と利用促進を図る。  
「企画展 池田輝の世界展」「上小美術展」「農民美術作品展」「陶磁展」「水彩画展」「油彩画展」「水墨画展」「上小地域作家作品展」「パッチワークキルト作品展」「写真展」の開催
- (3) 児童生徒の芸術文化活動への支援  
上小地域小中学校児童生徒作品展（絵画・書道・立体作品）の開催

### 3 上田創造館

当館は、上小地域の児童科学館と地域のコミュニティ育成、芸術文化振興の複合施設として建設されましたが、科学館部門でみると小中学校の天文、物理、生物等の科学教育の補助的な施設と考えられており学校利用が中心となっています。

しかしながら、昨今の社会情勢、生涯学習の観点等から圏域住民への科学的情報、知識の普及啓発という部分での取り組みが強く求められています。

あわせて、「休日の子どもの居場所」としての機能強化にも配慮していかなくてはならない時代的、社会的な要請も強くなっています。

このような背景分析に基づき、圏域住民の芸術文化、教育、レクレーション等の振興を図るとともに圏域の「児童科学館」として科学教育を魅力あるものとするため、主催事業による教育の展開を積極的に行う。

あわせて、施設の適正管理、貸し館部門の利用促進に努める。

- (1) プラネタリウムや天体望遠鏡を活用した天文学習の開催と推進
- (2) 園児や小中学校の学習教室の開催
- (3) 学校週休2日制に伴う児童生徒の校外学習教室の開催
- (4) コミュニティの育成に関する事業
- (5) 文化振興に関する事業
- (6) 各種パソコン教室の開催
- (7) 児童、生徒の科学クラブ育成の試み
- (8) 市立図書館の分室、学習室としての活用
- (9) 複合機能を持つ特性を生かした利用促進
- (10) こども未来21世紀事業（仮称）の取り組み

### 4 上田市技術研修センター

利用者の拡大を図る為、平成18年度に、利用者アンケートを実施し各種要望があったので、それらを参考に利用しやすい施設に改善していく。

まず、要望の多かった館内禁煙については18年度10月から実施、さらにインターネット導入要望の検討、冷暖房設備の改修、寝具の更新、その他設備の更新など年次計画により実施。

平成19年度については、電気設備の改修等、施設の更新を行う。なお宿泊利用者の拡大のため広報活動を行っていききたい。

また、引続き火災予防等利用者の安全確保の為、職員の訓練や設備の点検等を実施する。

### 5 農林漁業体験実習館（室賀温泉ささらの湯）

山間の緑豊かな静けさの中、地下1,500mから自噴する化粧水の湯が肌をしっとりスベスベにし、湯量が豊富で天然温泉100%のお湯だからこそ、自信を持って利用者の皆様に満足していただけるサービスと、笑顔でお客様をお迎えし、魅力ある温泉施設として営業努力に励み、農村と都市との拠点施設として、環境整備と管理に努め、温泉資源を活用した地域に密着した事業の展開を推進する。

- (1) 自主事業の企画・実行（ガーデニング教室、体験教室等）

- (2) 地域との連携を図る各種イベント等の実施（ほたる祭、七夕まつり、盆踊り大会、きこの研修会、温泉まつり、もちつき・しめ縄作り体験等）
- (3) 情報・文化の交流を深めるギャラリーの活用（写真展、絵画展、生け花展等）
- (4) 利用者数向上に向けての利便性向上推進（マイクロバス送迎、広報活動、高齢者及び利用者に対しわかりやすい展示物、手すり・腰掛等の設置）

## 受託事業

### 1 農業バイオセンター

トルコギキョウ、スターチス、花壇用等の苗生産については、優良な品種と良質な苗生産に努める。

市民要望、市役所内部の各課の取組みの中で、当施設においても協力体制を強化していく。

#### (1) 試験研究事業

人為交配による新品種の育成

トルコギキョウ、スターチスの新品種の育成

松くい虫に抵抗性のある赤松の研究

交配種子の選抜試験

トルコギキョウ、スターチスの選抜試験

景観植物の研究

オオマツヨイグサ（月見草）の種子繁殖試験

フジアザミの種子繁殖試験

地域特産品の開発と純系保存に関する研究

大豆（コウジイラス）の純系保存と付加価値を付けた製品開発

山口大根の純系保存と種採り

山口大根の大型種（室賀系山口大根）の固定化試験

モイワナズナの保存（岩鼻隧道工事による一時避難）

蚕影キュウリの性状調査と種採り

上田みどり大根の純系育成

タカサゴユリの性状調査と保存

#### (2) 実用化試験事業

宿根スターチス（ファミリーーツク、クリーム他）

トルコギキョウ（だるま、アプリコット、ラブソング、紫の郷、紅の郷、ラムレーズン、カブキブルー他）

健康補助植物（ルバーブ、バジル、フェネル、桑の葉等）の検討

リンドウ（丸子地区）のメリクロン苗化試験

#### (3) 育苗事業

育苗利用組合、JAの依頼を受け育苗から配苗まで

・トルコギキョウ（約140万本）

カブキブルー等のプラグ苗、だるま等の冷房苗

・スターチス（約1万8千本）

イエローバーディー、ロマンチックブルー等のメリクロン苗

・キングヨソウ他（15万本以上）

公園緑地課の依頼による花壇苗育苗（ポット苗、プラグ苗）

・各自治会、北小フラワーロード、六中他（約4万3千本）

#### (4) 栽培指導

ガーデニング教室への講師派遣

育苗指導

### 2 マルチメディア情報センター（メディアランドUEDA）

「市民サービス・満足度の向上」、「地域の競争力の強化」、「地域の個性・上田らしさの発信」という目標を推進するために地域情報化の拠点施設として事業の充実を図る。

また、学校教育の情報化を支援するとともに、ネットワークセンターとしての役割の強

化を図り、情報化社会の利便性の向上に努める。

(1) 人材育成事業

マルチメディア情報センターでは、子どもから大人まで情報技術を活用した表現力の向上や個性を引き出す事業を展開してきた。また、各種セミナーの受講者はこれまでの累計で4万5千人を超え、一般市民のICT（Information Communication Technology）活用の底上げに大きな役割を果たしてきた。インターネット白書2006によるとインターネットの普及率がわが国の世帯の85.4%（世帯浸透率）となり、近年の情報化社会の進展は目覚ましいものがある一方で、情報化社会における「影」の問題を派生させており、この解決が大きな課題となっている。

学校教育の情報化並びに、ICTを活用した生涯学習推進の支援  
情報モラル、メディアリテラシーの向上  
ICTを活用した表現力の養成  
地域企業のICT高度活用の支援等

(2) 地域個性の情報発信

これまでに蓄積されたマルチメディア情報センターのホームページは、「内容が充実した全国屈指のサイト」としても評価されているほか、職員による自主制作ビデオ映像も全国規模のコンクールで入賞するなど地域の個性を記録、保存することに力をいれてきた。それらを有効かつ多用途に活用することにより「上田らしさ」を創出する情報発信を積極的に行う。

地域の貴重な文化資産を記録、保存、活用を進める。  
蓄積されたコンテンツの有効活用

(3) 情報活用支援センター

国は2010年の次世代ICT社会の実現に向けた中期ビジョンを策定し、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークを簡単に利用した便利な社会を目指している。上田地域の情報関連施設としてネットワークの中心となるマルチメディア情報センターの一層の機能強化を図り、情報技術を活用する支援センターとしての役割を果たす。

市民団体との連携  
市民のICT相談  
地域イントラネットの運用管理

(4) その他

施設の利用者増を図るための積極的なPR活動を行うとともに、映像の上映会やイベントを開催する。